

「平成 22 年度 男女共同参画に関するシニア世代の意識と実態調査」

<問 6-3. あなたが介護している(いた)とき、思われたことをお聞かせください。>

(回答一覧)

- 自分の母親(88 才)を介護しています。父も 88 才で 2 人暮らしのため、近くの私が週に 3 ~4 日通っています。母の認知症が進み、先が不安で仕方ありません。
(女性 / 60 歳~64 歳)
- 毎日がストレスになった。(男性 / 60 歳~64 歳)
- 私が介護していた期間は 4 年間でした。夫の父ということで始めは戸惑いました。夫と分担して介護が出来て良かったと思っています。介護というのは 1 人の人に任せるのではなく、家族全員で分担してやるものだと思います。自分の気持ちを誰かに話す事も大切だと思います。介護保険制度、介護保険施設などを大いに利用すべきだと思います。
(女性 / 60 歳~64 歳)
- 両親が一度に入院したり、家に帰ったりしたために夜もゆっくり休めなく、気力だけ乗りきった。自分自身の事は考えても見られない状況下でも人として頑張ろうと思いつつ両親の死を看取った。(男性 / 60 歳~64 歳)
- 父親が病院に入院していたが、母親が亡くなる時は自宅で逝かせたいとの希望で自宅で介護する様になり、但し 24 時間介護だったため(点滴等)介護する方が精神的、体力的にきつかった。(男性 / 60 歳~64 歳)
- 施設を利用させていただいたのですが、仕事との両立で負担と感じた事がかなりありました。妻の協力がそうそうもらえず、母の理解に苦しんだ事がありました。子ども、特に男が女親をみる難しさはかなりあり、協力したくても出来づらい部分(特に下の世話)があり、キツイと感じた事もありました。(男性 / 60 歳~64 歳)
- 施設(ヘルパー等)の関係者の皆さんに大変お世話になっております。
(女性 / 60 歳~64 歳)
- 仕事との両立の大変さ。(女性 / 60 歳~64 歳)
- とにかく死ぬまで、自分の事は自分で、できる様にしたい。そのために、今からは何が必要かよくわかった。“健康と経済力”(女性 / 60 歳~64 歳)
- ケアマネージャーの対応が悪かった。(女性 / 60 歳~64 歳)
- 寝たきりだったので、トイレ、風呂等の介護は大変だった。それと、失語症もあったので意思確認が難しかった。(男性 / 60 歳~64 歳)
- 介護施設の料金が高い。(男性 / 60 歳~64 歳)
- 老人になると男女同等にベッド・布団でも寝かせたり起き上がらせる時、重いので腰に力が入り、大変な事だと思いました。また、同じ事を思いつめるとその事しか頭に浮かんで行動しか出来ないのが介護する時は充分その事を考えてしなければと思いました。今後増々老人が多くなり、老人介護が必ず必要になってくるとは思いますが、老人ホーム・グル

ープホームなど介護施設に安い料金で入所できる様に実行して頂きたいと思います。

(女性 / 60 歳～64 歳)

- 子どもが知的障害のため、言葉のかかわりと施設への送迎。(女性 / 60 歳～64 歳)
- まわりの人達も協力してほしい。(女性 / 60 歳～64 歳)
- 1 ひとり暮らしの義母の家へ時々様子を見に行った。2 義母を病院へ連れて行った。
3 施設へ入所後は時々様子を見に行った。4 最期を看取った。(男性 / 60 歳～64 歳)
- ただ介護するよりは、本人の状況、能力を最大発揮して活動できるよう、リハビリ等充実すれば、認知症の進行を防ぐことができるし本人も生きがいを感じて生活するようサポートしたらよいと思う。(男性 / 60 歳～64 歳)
- 男性介護人に少し違和感。(女性 / 60 歳～64 歳)
- 公的(第三者)の支援が必須。(男性 / 60 歳～64 歳)
- 実家の父・母でしたが、弟達と一緒に住んでいたのですが、お嫁さんがあまり面倒を見てくれず、実妹と共に通った覚えがあります。(女性 / 60 歳～64 歳)
- 自分がこの世に生を受け生きて生活をしている中で楽しい、苦しい、つらい、せつない等を感じられるのは人間に与えられた宿命だと思う。親に(父と母)に感謝の気持ちを持たなくてはいけないと同時に先祖にも感謝し又生活の中で使う物、必要な物食べ物それを切る包丁からまな板買い物に行く車等使用させていただいている物すべてにありがとうと感謝の気持ちを持たなければならない。順位もおのずから決まると思います。
(男性 / 60 歳～64 歳)
- デイサービスを利用したので助かった。兄弟が協力的でなかった。息子夫婦がとても協力的で心が安らいだ。男性は育児、介護に向いていない人が多いが、介護の講習会参加を義務付け実技も勉強すると良い。介護保険があるのですぐ施設へ入れれば良いと思っている今の 20 代若者が多いのでは？(自分達は手を出さない)
(女性 / 60 歳～64 歳)
- 病院へ連れて行く回数が多くなってくると、1 人でやっている、仕事をやりながらの介護はきつい(休暇をとりにくい、会社や仲間に気を遣う)。認知症が進んできた場合、金銭面の管理を 1 人でしていると、相手との信頼関係等得られない場合もおきてくるので、夫もかかわってもらっていると有難い。友達との外出等もなかなか出来なくなりストレスもたまりやすいので、夫や家族の協力が得られると、介護がやりやすい。やさしい気持ちで介護にあたれる。(女性 / 60 歳～64 歳)
- 自分の親の介護なので特別苦にならなかった。もっと色々な介護用品がほしかった。ホームヘルパーがいたらもっと親に楽をさせることができた。(男性 / 60 歳～64 歳)
- 恥ずかしながら、身内、肉親の協力は得られず、第三者の友達、介護関係の方々に救われて何とか頑張ってきた。協力を得られない代わりに皮肉的な嫌がらせに体調を壊し、身内肉親の存在を考えさせられました。(女性 / 60 歳～64 歳)

- 15年程前の事でしたが、家で介護をしていた為、下の世話とお風呂がたいへんでした。姑と二人で舅を見ていたのですが、体が重いので動かすのに二人がかりでした。
(女性 / 60歳～64歳)
- 入浴の手伝い。(男性 / 60歳～64歳)
- 現行の介護保険の適用を受けている者には、広く使いやすく行政側が積極的な対応をされたい。制度を知らない人や申請をサポートすることによって制度が活かされる。民生児童委員の懇切ていねいな行き届いた知識と行動や、老人と同居した者や病気等の経験者を任命し、弱い者を精神的に支援をお願いしたい。痛みの分かっている者には真剣に取り組んでもらえるのでは。(男性 / 60歳～64歳)
- 自分の母親90才ですが、おもに全部妻に介護を頼んでいる。ショート・デイを利用しているが、認知症では時には妄想や幻覚で手のつけられない事態があり、介護する側も身体の不安を感じる。介護する側も年をとってきているので、施設が個人営業しているものでなく市・県で安く(8万ぐらい)入所できる場所がのぞましい。今入所出来る待ち人数は200番目以上であると妻はこぼす。(男性 / 60歳～64歳)
- 夫は、体格が良く体重を支えるのが非常に大変だった。(女性 / 60歳～64歳)
- 介護保険(介護支援)等の無い時代でした。子育てしながらの介護でした。
(女性 / 60歳～64歳)
- 配偶者・ヘルパーさんの協力無しでは、介護は無理。(男性 / 60歳～64歳)
- 自分の気持の中には精一杯してあげたいと思うのですが、現実的にはなかなか大変で、思う気持の1/3もできずに・・・そしてこれがいつまで続くのかと思い・・・辛い日々もありましたが、期間は思いのほか短くてイヤな人間になる前に終わったので良かったなど。する人も大変だけどされる方も大変かと思えます。(女性 / 60歳～64歳)
- 義母の昼間の時間にデイサービスが利用できて助かりました。(男性 / 60歳～64歳)
- 経済が貧しくなる。心も貧しくなり夫婦仲も悪くなってしまう。(女性 / 60歳～64歳)
- 脳梗塞で倒れた90才の父を介護した。リハビリが必要だったので施設に入所したが、ほとんどリハビリは行われず(人手不足で)寝たきりになるのではないかと思い退所し、家族で介護をした。ケアマネージャーと相談し、訪問看護・ヘルパー・訪問入浴と、家族も私と妻・娘で時間割を決め、なるべく一人に負担がかからないように分散した。なるべく多くの人の手を借り、一人の負担を軽く長く介護できるようにするのがポイントと思った。
(男性 / 60歳～64歳)
- 不満があっても介護施設等には言いづらい。(女性 / 60歳～64歳)
- 葛藤はありますが、やはり自分も行く道であり、誰かのお世話にならなければならない事を常に考え、お世話をさせて頂いています。(女性 / 60歳～64歳)
- 介護(特に食事、下の世話)は女性の仕事と思っている人が多い。病院の看護師さんにもそういう人がいる。(女性 / 60歳～64歳)

- 子供と泊りに出掛ける事がなかった。買物はゆっくりできなかった。常に介護の事が頭にあり気持の休まりがなかった。(女性 / 60 歳～64 歳)
- 自分の母と妻の母でしたが、どちらも妻が行なってくれました。私は、時折車の運転を代わったくらいで妻の相談相手、経済上、妻に頼まれた事。あまり積極的でなかった事が少し悔やまれる。(男性 / 60 歳～64 歳)
- 予約での病院の通院なのに、待ち時間が長く本人はもちろん付添に行った自分も本当に疲れることが多かった。(女性 / 60 歳～64 歳)
- 要介護4・5と介護度が進んできた時は在宅介護は無理になりますが、その場合ショート、デイサービス等で何とか家族の負担を少なくしたいと利用させて頂いていますが、特別養護老人ホームの入居が申し込んだ時点で可能になれる施設がほしいと思います。どこを訪ねても200人～300人待ちの答えにストレスを感じます。要介護5で100才に近い老人については在宅介護の負担の大きさを感じます。(女性 / 60 歳～64 歳)
- 介護保険にてケアマネージャーさんにも多々助けいただき感謝して居ります。しっかり頑張るのではなく、その時その日の自分のできる事を肩に力を入れずゆっくりあせらず過す事が介護する人もされる人もいいのでは…と思う様になりました。ちなみに私の介護歴は母～姑～弟～夫と17年間に居り、今後まだまだ先がある様です。気楽にゆっくりと…と自分に言い聞かせながら…。(女性 / 60 歳～64 歳)
- 周りの人のやさしさがほしい。(女性 / 60 歳～64 歳)
- 介護期間が短かったので負担ではなかった。(女性 / 60 歳～64 歳)
- 行政の介護サービスの充実(ハード、ソフト共)。(男性 / 60 歳～64 歳)
- 自分も働いていた為、市内の施設に預かっていただきました。施設の介護員さんはイヤな顔一つせずオムツ交換等(介護)をしてくださいました。入所中介護員さんには感謝あるのみでした。現在介護施設で働いております。人生の終末のその時までおだやかな生活が送れますよう、お手伝いさせていただいております。(女性 / 60 歳～64 歳)
- 介護制度は型や規則などにしばられ中身に心が無い。不平等さも感じる。介護を受ける者も、行う者も、安心感が欲しい。手続きばかりが多い。介護は介護者がいる者だけの問題ではない。子供の頃からの教育・啓蒙が必要かと思う。(女性 / 60 歳～64 歳)
- 公的なことはいろいろ利用させて頂きましたが、義姉妹との関係なども含め、非常につまらなかつたです。近い将来介護される身となる私は、される自身の意識が大切かと思っています。(明治生れの義父母だったので、嫁の介護をあたりまえのようにとらえていたように思います)。(女性 / 60 歳～64 歳)
- いつまで介護が続くかと思った。自分の方が疲れて病気になったり倒れたりするのではないかと思った。(女性 / 60 歳～64 歳)
- 昼間は私も仕事をしていたのでほとんど毎日デイサービスに行っていました。後に入院もして最後は病院で亡くなりました。家にいる時は家族の協力もあり、なんとか看ることが出来ました。(女性 / 60 歳～64 歳)

- 経済的に仕事をやめるわけにもいかず、東京までの通院に付き添ったり、義母が寝込んでからも、夜私の仕事が終わってからの世話なのでゆっくりと話も聞いている時間も無く義母はさみしい思いで亡くなった事と思われる。夫は介護は女性がするものと思っており、時間が有ってもほとんど手を出さなかった。男性でも介護出来るよう、意識の改革が必要！（女性 / 60歳～64歳）
- 病気に次から次へとかかりやすく、通院・入院とも手間、労力はたいへんである。耳は遠いし、言葉も出にくいので、忙しい時はつい、イライラしてしまう。（男性 / 60歳～64歳）
- 自分の時間がない事(とても疲れる)。（女性 / 60歳～64歳）
- 毎日の病院通いで疲れた。妻も子供も一緒に行ったから良かったが看護疲れが・・・。（男性 / 60歳～64歳）
- 介護する人の、心と体のケアが大事。（男性 / 60歳～64歳）
- お年寄りの人が自分から介護制度を利用できるように心を動かされるような、サービスを期待します。（女性 / 60歳～64歳）
- 状況が悪くなっているのに要介護から要支援に介護度が下がったのはどういうことか。（女性 / 60歳～64歳）
- 介護保険サービスを利用して、入浴やヘルパーさんにもお世話になりましたが、一人で介護するのは大変でした。（女性 / 60歳～64歳）
- 順番なのであまり苦にならない。親・兄弟の介護は当然だと思う。（男性 / 60歳～64歳）
- 親の介護をしている時、他の兄弟は物理的(仕事・遠方)に大変ということで私がいちばんできることをありがたいと思った。ただ、実の親子ということでお互いに言いたいことを言い合い、けんかをしたりなど感情がでてしまうことがあった。疲れているとはいえもう少しやさしくしてあげればよかったと反省した。（女性 / 60歳～64歳）
- 介護制度がなかった時期は自分で介護をしないといけないと思った。夫の父はデイサービスも行きたがらなかったから自分で介護をした。（女性 / 60歳～64歳）
- 地区の役員さんがよく指導してくれた。（男性 / 60歳～64歳）
- 一緒に生活していない人には、現実が少しもわかっていない。せめて1ヶ月ぐらい一緒に面倒を見て、判断して欲しい。口では大変だねと言っても、全ては私自身が背負わなければならない。毎日接しているとだんだんやさしい気持が失われて行く。自分がストレスで体調悪くなる。（女性 / 60歳～64歳）
- 夫の父と母を介護しています。夫に先立たれ、1人で2人の介護は経済的にも精神的にも、不安な毎日です。自分自身、健康でいなければ介護ができないので、第1に健康を考えて、介護保険のサービスを利用し、まわりの人達にも協力してもらい、気負わず介護しようと思っています。（女性 / 60歳～64歳）
- 認知症に対して兄弟が認めてないため嫁の立場が悪くなる(親の言い分を信じてしまう)。又、嫁が見る事が当然との考え方も強すぎる。又、病気が安定した時の入院設備の不足及び他の場に行く場所も不足している。（女性 / 60歳～64歳）

- 義母の子供達はほとんど顔を出さず口を出している。経済的な援助もない。働きながらはとても大変。夫も私まかせのほう。この頃になり、少し家事に手を出して来ている。(女性 / 60 歳～64 歳)
- 施設に入っていて全部介護したわけではないが1日おきに行き、会いに行ったりしたのが大変でした。又、具合が悪くなると電話があり、毎日がドキドキでした。(女性 / 60 歳～64 歳)
- 子供が具合が悪いのに(ガン)、年金を収めています。(約5年ぐらい現在36才)。(男性 / 60 歳～64 歳)
- 大変で家族だけではめんどろを見るのはきつい。(男性 / 60 歳～64 歳)
- 嫁としての介護をしています、自分の親なのにつくづく思います。我が家だけかも知れませんが、なすべき事をやってくれません。そしてその親も又、デイサービスには行ってくれますが、ショートは行く度に行きたくないの一言を言います。貴方達は私が死んでからどこかに出掛けて！！とも…。つくづく、可愛い年寄りにならねばと思う毎日です。(女性 / 60 歳～64 歳)
- 介護はいつ終わるか、わからないので夫も仕事を休むと、経済的に苦しくなる。休んでしまうと、すぐ職場で受け入れてくれるか心配。民間は厳しいと思う。(公務員はわからないが…一旦就職すると、クビになる事はない)。介護施設の料金を減らしてほしい。(女性 / 60 歳～64 歳)
- 20 年も前から何かと介護を続けて参りました。市の入浴サービス等大変助かりました。自分の親は遠くに居たので、月に3回位(毎週日曜日)に出来るだけ見舞うようにして5年間位続けました。寝たきりで父親が介護をしておりました。高齢で現在 94 才になります。母は3年前に他界しましたが、現在父親を元気づけに行っております。夫の父親は5年間、家で寝たきりになり、体が大きくて大変でした。夫の母親は現在 95 才でアルツハイマーで困っています。入れる所がなかなかなくて順番待ちです。でもデイサービスが有るので大変ありがたいです。(女性 / 60 歳～64 歳)
- 夫に積極的に手伝ってほしかった。(女性 / 60 歳～64 歳)
- 病院の対応の悪さ。(男性 / 60 歳～64 歳)
- 他の人にも手伝って欲しい。精神的に大変だった。今のように、デイサービスもなく、他に話すことがタブーであった。(女性 / 60 歳～64 歳)
- 私が仕事をしていたので夫が見ていた。(女性 / 60 歳～64 歳)
- 介護保険制度のはじまった時で、それまでどうやって父の面倒を見たら良いのか困っていました。本当に助かりました。思う存分介護が受けられると良いと思います。(女性 / 60 歳～64 歳)
- 10 年以上前に、男性を自宅で介護したが、今の様にデイサービスや入浴訪問などなく、家での入浴だったのですごく大変だった。今は在宅でもだいぶ楽に介護が出来る感じに思われる。でも 24 時間介護は大変と思う。(女性 / 60 歳～64 歳)

- 目が見えないため、生活に至難な面がある。思考力の低下により判断ができない。(男性 / 60歳～64歳)
- 1人では介護できませんので姉妹で母を介護しています。月に2回介護師さんが来ていただきますので、色々アドバイスして下さいますし、面倒を見てくれますのでとても助かっています。(女性 / 60歳～64歳)
- 夫の単身赴任、そして同時に二人の介護が必要となった時期もあり、施設を利用させていただきましたが、一定期間で他の施設に移らなければならなく、とても矛盾を感じ又病人のためにも介護する側にとってもストレスの大きいものでした。制度を変えてほしいと思ったものです。(女性 / 60歳～64歳)
- 自営業であったため、一緒に居る時間も多く、入院してからも比較的時間が自由に取れたので、困る事は少なかったと思うが、もう少し家族(夫)の協力があれば、と思う事もあった。(女性 / 60歳～64歳)
- 介護されている方が安心していただいているように思います。しかし、今までは私が若かったのですべての事が出来たのだと思います。(女性 / 60歳～64歳)
- 父の時は母と2人で自宅で介護していましたが、大変でした。母は認知症にて1人では世話ができません現在特養ホームに入所中です。今回は料金が大きく大変です。(男性 / 60歳～64歳)
- 現在精神科に入院している。入院費用がかさみ大変(8ヶ月目)。(男性 / 60歳～64歳)
- 寝たきりの夫の母を1年介護し(その前足が弱くなってから3年くらいでしたが)、よく介護したと思いました。周囲の人達も協力してくれたので明るくできました(今のよう介護制度がゆき届いていない平成2～3年頃でした)。(女性 / 60歳～64歳)
- 1年間、意識がなく胃ろうでの治療だったので、大変でした。特に毎日洗濯物を取りに行く、3ヶ月毎に介護施設の移動、次の施設を見つけること。(男性 / 60歳～64歳)
- 仕事との両立で体力的にきつかった。介護施設が十分にあれば利用するのに順番待ちが大変です。(女性 / 60歳～64歳)
- 私が一番仕事に打ち込んでいる時、介護のため仕事を辞めざるを得ず、それが未だに残念です。介護が嫌なわけではないけれど、女性でも一生仕事がしたいのにと感じていました。(女性 / 60歳～64歳)
- 入院していたので大変助かりました。(男性 / 60歳～64歳)
- 介護保険制度がなかったため、ほぼ1人で介護した。介護を手伝ってくれる人が家族以外にいたら、休めるときがあり、楽であった。(女性 / 60歳～64歳)
- 介護の苦勞、労力は肉体的、精神的に相当な負担となっており、経済的に相当な負担も多いので、税制等の控除があっても良いと思う。介護している方々の集まり(会合等)を市町村が積極的に主催して欲しい(1泊2食の旅等)。(男性 / 60歳～64歳)
- 3年間、姑の介護をしました。夫と二人での介護でしたが(夫は夜と休日のみ)、食事の世話、おむつ交換、入浴介助、忙しい日々の連続でした。デイサービスに週2日。入浴サ

ービスは週1~2回。月に一回ショート(1泊2日)を利用しておりました。介護保険制度ができて間もない頃の介護でしたが、ベッドやマット、車椅子などレンタルも受けました。おかげ様で姑の居ない時に少し自分の時間が取れたりしましたので、多少、リフレッシュできたかな?とも思います。特別養護老人ホームやどこの施設も入所が厳しく100人単位の待機であり、入所の気配りすらないままに亡くなりました。当時、介護疲れとストレスでいつも神経はイラついており、介護のことで夫と言い合ったり、子どもに当たったりしました。自分自身も体調を崩し、辛かったです。(女性 / 60歳~64歳)

- 大変でした。(女性 / 60歳~64歳)
- 認知症が入っていたため、すごく大変でストレスが溜まり、ひっぱたきたくなることがあったが溜まりました。(女性 / 60歳~64歳)
- 非常に苦勞した。(男性 / 60歳~64歳)
- 先が見えない不安が常につきまとう。相手が本当に望んでいることをきっちり把握できているのかわからない。仕事との両立が難しい。(男性 / 60歳~64歳)
- 本格的な介護制度ができる以前のことで。比較的、経済的に恵まれていたため、主婦も勤めなくても良かった。大変といえば大変かもしれないが、それなりに楽しくさせてもらっていたと思う。(女性 / 60歳~64歳)
- 寝たきりの義母を7年間お世話しました。義父と夫と協力しながら、介護施設、病院への入院等を利用しながら、何とか乗り越えることができました。大学生2人に仕送りにお金が掛かり、仕事を辞めずにお世話しましたが、夫が私に仕事を辞めて親の世話をやってもらいたいと言わなかったことに大変感謝しています。子ども2人が県外で働いているため、自分が1人になった時は元気なうちに介護付老人ホームに入った方が良いか、子ども達に迷惑をかけないベストな方法を模索しています。病気になりたくてなる訳ではないが、生活習慣を見直すことで防げることは、意識して改善に努めなければいけないと、自分への自戒を込めて思うようになりました。あと、生涯を通しての楽しみを見つけること。(女性 / 60歳~64歳)
- 老人保健施設に預けました。自分の生活がいっぱい(仕事、家事等)で気持ちにゆとりがなくて施設に行っても洗濯物の用意をするぐらいで、横に座ってゆっくり話を聞いてあげられることもできませんでした。何年か前に亡くなりましたが、いつも後悔で頭がいっぱいになります。(女性 / 60歳~64歳)
- 働きながら介護をしてお昼もお弁当を作って、最期の2ヶ月は病院でお世話になりました。デイサービスも週1回でお世話になれました。(女性 / 60歳~64歳)
- 社会から取り残されている不安が大きかった。公的サービスが少なく旅行ができなくてショートステイが可能な所も少なく、温泉に一泊もできないことが10年続いた。寂しかったです。(女性 / 60歳~64歳)
- 私が女性のため、あまり力がないので父親の介護は大変ですが親なので見てあげたいと思います。(女性 / 60歳~64歳)

- 介護施設でなかなか受け入れてくれない。介護施設を手配してくれる機関があればありがたい。(男性 / 60 歳～64 歳)
- たまには自分の代わりになってくれる人がいてくれたらと思います。(女性 / 60 歳～64 歳)
- 色々な面。当人の精神的、肉体的、経済の負担等大変だとつくづく思いました。年数が長いほど大変です。(入院、退院)等のとき。(男性 / 60 歳～64 歳)
- 母が介護保険施設に入所した時に、3ヶ月とか6ヶ月毎に施設を探さなければならず皆が大変苦労したこと。(女性 / 60 歳～64 歳)
- 介護施設での対応では親の介護は子どもが平等に介護するようになっていますが、現実には長男の嫁に全てが負わされるので苦痛以外の得るものがない(経済面も同じです)。施設の入所も(権力、名声)のない人は何度も足を運んでも入所できないし、期間も短期間に退所させられます(市職、県職名も役職が得です)。(女性 / 60 歳～64 歳)
- なかなか施設がいっぱいですぐ利用できず困った。(女性 / 60 歳～64 歳)
- 介護と仕事の両立が大変。時々施設に預け、仕事をこなしている。(女性 / 60 歳～64 歳)
- 預かってくれる施設がなくて困った。(男性 / 60 歳～64 歳)
- 要介護度が上がり、家族で大変になった時のことを考える。(男性 / 60 歳～64 歳)
- 介護の言葉に当てはまるか？が疑問でしたが、母が倒れて3日後に、父が容態急変で4日後に、心臓、脳のため、合計でも7日間でした。共に「親」でしたので当然の休みで誰にも何も言われなかったのが、当時の記憶です。(男性 / 60 歳～64 歳)
- 自由な時間が限られる。自分の体調が悪いとき、不安が多い。先が見えなくなる時がある。(女性 / 60 歳～64 歳)
- 介護は体力的、精神的になかなか大変なことだと思う。(女性 / 60 歳～64 歳)
- 時間のゆとりがほしい。(男性 / 60 歳～64 歳)
- 自分の親じゃないからと非協力的。(女性 / 60 歳～64 歳)
- まだ介護保険制度が確立していなかった時なので、子どもが小学校～高校生で子どもの世話と両親の世話、そして農作業で10年間、本当に大変な毎日でした。それでも、夫の協力があり乗り越えられました。
今は介護保険がありますので、積極的に取り込んで利用し、負担を軽減した方がいいと思います。(女性 / 60 歳～64 歳)
- 十数年介護をし、最終的には要介護5になり、施設をお願いするとケアマネージャーに何百人待ちと言われ本当に困りました。目一杯デイサービス、ショートを利用し、今は施設に入所する事ができました。母に会いに行ってもお互い？穏やかな状態で接するようになり良かったと思います。高齢化時代に入り、まわりにも家族で介護して困っている人が大勢います。介護される人より介護する人を助けるように施設を増やして安心して働ける

ような社会になってほしいです。金銭面でも入所できない人が沢山います。これから本当に不安な生活がありそうで心配です。(女性 / 60 歳～64 歳)

- 親の介護ができてありがたいことと思いました。介護制度も有り難いことです(特に入浴)。(女性 / 60 歳～64 歳)
- 家族のサポート(協力)があり、とても助かった。介護保険のサービス(デイサービス、ヘルパー等)の利用ができたので仕事も続けられて、精神的、肉体的、経済的にも助かった。(女性 / 60 歳～64 歳)
- 家族3人で役割を決めて介護したが、気が休まらなかった。1人ではとても大変だと思う。(男性 / 60 歳～64 歳)
- 仕事をしながらだったので、心身ともに疲れきってしまった。本人が私だけが介護するのが当然または他の人に介護されるのを、望まなかった事もあり、鬱になってしまう感じであった。(女性 / 60 歳～64 歳)
- 介護を中心に生活が回っていた。(男性 / 60 歳～64 歳)
- 介護は大変だと思った。(男性 / 60 歳～64 歳)
- 病院等のプロの支援がないととても病人の介護はできないが、入院しても3ヶ月で転出されてしまうので途方に暮れてしまう。(男性 / 60 歳～64 歳)
- 子が親の介護をするのは義務である。(男性 / 60 歳～64 歳)
- 介護と言ってもそんなにたいしたことはやっていないけれど、義父が腹膜透析をしていたので腹部の消毒と病院への送迎、私の母は老人ホームに入っていたので、時々面会、女性ばかりでなく男性も介護にかかわるべきです。(女性 / 65 歳～69 歳)
- 介護認定要介護2になり、デイサービスで御世話になっています。家に居る時は食事は三度取り、体そのものは丈夫なのですが、時間とか季節(月)などが段々と解らなくなって来ています。今の所トイレ食事等は本人が出来ているが、昨日の事より昔の事を良く覚えていて今現在の状況が良く理解出来ていない。(男性 / 65 歳～69 歳)
- 20数年前の事ですが、今の様に介護施設がなかった時代でしたので、自分1人で看るしかなかったのが、本当に苦しい日々だったと思い出しました。たとえ1日か2日でも誰か助けてくれないかなあと思いました。(女性 / 65 歳～69 歳)
- 大変であった。(男性 / 65 歳～69 歳)
- 特に考えないでやっています。考えると頭が痛くなるから。(女性 / 65 歳～69 歳)
- 夫の就業中は介護のための休暇はとりにくい様に思われました。退職後は積極的に手伝う事が多く、とても助かりました。無理をせずに、こちらからお願いする事も必要だと感じました。協力し合ってお互いに思いやりを持ってやれた事、幸せに思います。(女性 / 65 歳～69 歳)
- 現在は入院していますが、介護は3年間、その時は1人でしたので、食事、買い物、すべて時間が足りず、寝る時間は4時間位でした。目、腰も悪くなり困りました。ヘルパーさん

も30分しかたのめず(娘がいるからという理由で)、困りました。その結果、後悔している所です。心の傷になっております。(女性 / 65歳～69歳)

- 自分1人で介護をしていると留守にすることができないこと。(女性 / 65歳～69歳)
- 介護施設への入所を相談に行っても親身になって相談に乗ってもらえなかった。(男性 / 65歳～69歳)
- 施設で預かってくれれば助かると思った。が経済的にできなかった。(男性 / 65歳～69歳)
- 自由がきかない。(女性 / 65歳～69歳)
- 寝たきりの夫の母を介護しました(3年6カ月)。当初は日々一生懸命頑張り夫にも手伝ってもらい介護しましたがストレスがたまり、体力的にもつらかったです。夫も手伝ってくれて、介護の大変さを理解して、お互いに話し合いショートステイ・訪問入浴などをお願いしました。(女性 / 65歳～69歳)
- 自分は自ら父母を介護するのは当然だが、妻は身体に障害がある身であり、末子の嫁という立場もあり可哀そうに思った。(男性 / 65歳～69歳)
- 1 母親と父親では気持ちの面でも対応がちがった(母親にはやや力が入った)。2 やはり子どもでも家を継いでいる者が介護すべきだと思った(他の者にたよることは良くない。長続きしない)。3 介護する期間が不明の中での介護であり、長期になる場合は施設にたよった方が良いと思う。(男性 / 65歳～69歳)
- 困った時は、人は来なくなり自分一人で大変だった。その人の身になって何かできること励ましてもいい、同じ気持ちで接してほしいと思う。(女性 / 65歳～69歳)
- していた時は休暇制度がありませんでしたし、一家の収入は夫にかかっていたので、しかたがないと思いました。問5について1番を回答をしましたが、それは理想です。職場の理解が得られなかったり、経済的に苦しくなるとしたらそのかぎりではありません。(女性 / 65歳～69歳)
- 介護の大変さは実際にしてみなければわからなかったが、自分たち夫婦がその立場になって分かりました。2人がかりでオムツを替えたり、着物を着替えさせたり、1人は家になくってはならない。食事を介助しなければならぬしと、ないないづくしで本当に疲れる。病院に入院している時に多少助かるが、退院しても特別養護老人ホームなどに入れなければどうしようかと考えてしまう。特別養護老人ホームはいくつも申し込んであるが、病人では入れない。これからのことを考えると気持ちが重くなります。(男性 / 65歳～69歳)
- 病人の心ゆく介護が出来ているか。おむつ代とか洗濯(病院で)代とかがかさみ大変でした。自分も一緒に心が沈んでしまった。子どもが小さかったので、週に一度位は子どもと遊んであげたかった。(女性 / 65歳～69歳)
- 父の時は介護制度がなく自宅で見ておりましたが、幸い自営業でしたから看病が出来ました。当時は子が親を看るのは当然という考えが主流でしたが、制度があればと思いま

した。母の時は制度の運用が始まり勤めていても何かと安心感がありました(自宅へヘルパーさんが来てくれる)。病が重くなると入院せざるを得ず、快方に向かえば退院を勧められ入退院の繰り返しのうちに制度の不備を考えさせられました。病院等の営業を重視した診療に腹立たしく思いました。(男性 / 65 歳～69 歳)

- 常に近くで付添っていなければならず見守りが大変だった。(男性 / 65 歳～69 歳)
- 自分と同居している父母であり、あまり介護はしなかったが、妻が良くやってくれた。父は戦争で3回も外国へ出征し、最後は日本が敗戦したとは知らず8月20日にソ連軍(ロシア)につかまり貨車に乗せられ日本へ帰ると思ったら、「モウコ」「シベリア」へつれて行かれたとの事。何かシベリア鉄道建設の話を良くしていた。1人で「焼酎」を飲みブツブツ言っていた。今思えば、心境は？それでも22年11月に帰ってきた。他の方には申し訳ない。(男性 / 65 歳～69 歳)
- 介護方法を勉強しておけば良いと思った。(男性 / 65 歳～69 歳)
- 仕事をしておりましたので妹夫婦に頼みました。子どもも小さく親には何も出来なく、介護するためお休みしても生活が出来る事を望みません。(女性 / 65 歳～69 歳)
- 養父母が東京在住でしたから、松代にいた祖母の世話をしていた(祖母と同居していたから)。(女性 / 65 歳～69 歳)
- 介護はあたりまえ。(女性 / 65 歳～69 歳)
- 寝たきりだったので、おむつや体をふいてやる時が大変だったが、なんとかやりとげて義母もよろこんでくれたと思いました。(女性 / 65 歳～69 歳)
- 他県の独居の父親の介護と生活支援が現行制度では困難。隔週で長野市自宅と他県の父実家(父96才要介護2)を往復している。交通費が大変(年金生活のため)。同居すると介護支援が受けられなくなったり、特別養護老人ホームへの入居が困難になる。(男性 / 65 歳～69 歳)
- 1 老人保健施設・特別養護老人ホームに入所することが順番待ち等で難しい。2 病院等の長期入院が難しい(転院をせまられる)。(男性 / 65 歳～69 歳)
- この介護がいつまで続くのか。自分もいずれ介護してもらおう時が来るのかなと心配になりました。(女性 / 65 歳～69 歳)
- 介護は母親の希望どおり自宅でみましたが、一人では無理であることを痛感しました。幸いにも退職と重なり、夫婦でみましたが、施設・訪問看護の制度を活用してのりきりました。決して一人ですべてをやりとげるとは思わないこと。時には、力を抜くこと。が大切だと思いました。(男性 / 65 歳～69 歳)
- 自分が子供の頃父が若くして亡くなり、私達三人の子を女手一つで育てた母の姿・生きざまと、老いてからの姿を見て、老いると言う事の恐ろしさに悲しみを感しました。ちなみに母は満90才で亡くなりました(大正前期の生まれです)。(男性 / 65 歳～69 歳)

- 時間に追われストレスがたまる。15年程前は、デイサービスなどなく、風呂も毎日1人で入れ、今思うとよく介護したと自分で自分をほめてやりたいと思う。認知症の介護は当人でなければ大変さがわからない！！（女性 / 65歳～69歳）
- 1 食事関係（好き嫌い）。2 おむつの取り替えが大変。（男性 / 65歳～69歳）
- 現在介護中。高齢者が高齢者の介護をするのはとても大変。特別養護老人ホームを増やしてもらいたい。（女性 / 65歳～69歳）
- 夫の親なので当然と思い、一緒に生活しておりますので特別思っている事はございません。93才になりますので夫と協力して暮らしております。（女性 / 65歳～69歳）
- 1 介護施設が少なく中々入所出来ない。2 入所出来ても数カ月で退所させられ、また別の施設を探すようになる。3 介護には終りが決まっていないので、いつまで続くか分からないという心労がついてまわる。このため介護する人に対する休養、心のケア等が必要と思われます。毎日24時間介護しているとイライラして来て怒ってしまうことが多い。夫婦の協力が大切。（男性 / 65歳～69歳）
- 家族、兄弟姉妹、皆に看てもらえたので、大変助かった。でもまわりも皆年を重ねて先行きが不安になる事がある。（男性 / 65歳～69歳）
- 現在、10年以上前から介護保険サービス、介護保険施設等の利用をし、年老いた母は日々療養生活にて生きております。子一人、母一人の時介護保険制度サービス及び介護保険施設等の有難さを心から感謝いたしております。もちろんその主旨を認識して介護保険料金を支払うべき義務につとめて参ります。（男性 / 65歳～69歳）
- 愛情が必要。（男性 / 65歳～69歳）
- 特別養護老人ホームに入所できたので大変だった事はない。特別養護老人ホームなど公的施設の充実が必要（公的支援）。受け皿がある事により老後が安心できる。（男性 / 65歳～69歳）
- 介護は先がみえないので大変でした。（男性 / 65歳～69歳）
- 介護教室に参加して知識を得ておき大変良かったと思う。（女性 / 65歳～69歳）
- 介護はとても大変です。自分がもし介護される立場になったら、夫には世話をかけたくないです。認知症がとても心配で日々努力しています。老人ホームが少ないので、いつ入れるか分からないという話をよく聞きます。老人が老人を世話をして不幸が起こることも度々聞きますので、どうか介護が難しい場合は手助けください。お願いします。今は二人共元気です。（女性 / 65歳～69歳）
- 自分の母の時は、自分自身パートで出ていたため、子供がまだ中学生のため時間に余裕がなく、義姉にたより、もっと時間をかけて病院へ連れていったり身のまわりの世話をあげたかったです。義母の時は夫の妹と二人分担を決め、お世話ができたと思います。（女性 / 65歳～69歳）
- 介護者は一生懸命にしているのでねぎらいの言葉がほしい。たまに来ては勝手なことを言わないでほしい。（女性 / 65歳～69歳）

- 妻が大変である。(男性 / 65 歳～69 歳)
- 感謝の心があれば自然に行なえる。男女うんぬんの問題ではない。(男性 / 65 歳～69 歳)
- 子として当たり前的事。(男性 / 65 歳～69 歳)
- 現在、夫の介護をしておりますが、一番欲しいのは、お風呂に入れてくれる所があればいいなあと思っています。ちょっと体の調子が悪いので、家では本人がなかなか入らない。簡単にお願いできて、連れて行って入れてもらえるところがあればいいのにとおもいます。1カ月に2度位しか入っていません。(女性 / 65 歳～69 歳)
- 老々介護に近く大変である。(男性 / 65 歳～69 歳)
- 自宅で介護したので仕事など出来なくて大変だった。(男性 / 65 歳～69 歳)
- 仕事との両立は大変むずかしい。(男性 / 65 歳～69 歳)
- 金銭的にキツイ。(義母)介護保険がない時、さがすのが大変だった。(夫)介護保険ができたが病気が重いと受け入れてもらえない(状態が脳梗塞と同じでも断られた)。デイサービス入浴できなくて、シャワー。(女性 / 65 歳～69 歳)
- 現在私の母親(90 才)は老人介護施設に入所しているが、私(67 才長男)一人で介護してみて、その大変に厳しい事を実感しました。(男性 / 65 歳～69 歳)
- 介護しなければいけない人が出ると、家族全員の生活リズムがくるってしまい、精神的にも肉体的にも本当に大変で普通の生活が出来なくなりました。自分でも御世話になる年齢に近づいた。出来るだけ自分の事は自分で出来る様にしなければと思い、運動等日頃気をつける様にしてはいるのだけれど…。(女性 / 65 歳～69 歳)
- 看護・介護の休暇制度があると言ってもまだまだ現実にはとりにくい・とれない状況でした。入所する・在宅で見る・どちらも利用しやすい施設や人員の数も不足だと思いました。(女性 / 65 歳～69 歳)
- 介護制度が助けになり(デイサービス・ショートステイ)、精神的にも救われたので現在7年目の介護を続けています。(女性 / 65 歳～69 歳)
- 妻が大変だったと思う。(男性 / 65 歳～69 歳)
- 介護が必要になった時、入院する病院がない。入院費が高い。(女性 / 65 歳～69 歳)
- 介護施設が足りない。施設に入れない。病院3ヶ月の周期でたらい回し。自宅での介護には限度がある(点滴を自宅で行うには医者・看護師が伴うが、限度がある)。風呂に入れない。(男性 / 65 歳～69 歳)
- もっといろいろな会話をしておいた方が良かった。家系の事は知るべきであったと思う。最後はあつけなかったけれど立派に人生を生きてもらえたと思う。(女性 / 65 歳～69 歳)
- 主に妻任せですまなく感じてはいました。(男性 / 65 歳～69 歳)
- 自分1人で介護するという事は大変な事である。(男性 / 65 歳～69 歳)

- 家族だけで介護は身心共に疲れるので、施設にお願いして大変ありがたかった。今後高齢化が進むなかで今の施設では数が少ないと思った。(女性 / 65 歳～69 歳)
- 義父母が二人同時期に介護状態でしたが義兄弟の嫁同志の連携プレーで看ました。自身も男子だけの子ですがそんな状態になった時は大変不安です。お金で解決できる程貯金等ありません。(女性 / 65 歳～69 歳)
- 1人での介護は大変だと思います。(女性 / 65 歳～69 歳)
- 介護している時期は、泊りで外出も出来ないのが現状。日々が不安の状態である。なかなか大変な事である。(男性 / 65 歳～69 歳)
- 子供が4人(男2人(弟)、女2人(姉))いて、女の子(中学と小6)に家庭をまかせ近所の人に夜時々家の中の事をみていただきました。夫(県外)は近親者はおらず病院に泊まり込みの時は近所の人と仲良くして良かったと思う。今は夫のお墓の近くに引っ越しました(もう30年になります)。近所との付き合いがありません。1人で町へ出る事が多い(バス)。(女性 / 65 歳～69 歳)
- 家族の協力がありがたかったです。(女性 / 65 歳～69 歳)
- 大変でした。(女性 / 65 歳～69 歳)
- 自由が制約されるので、精神的な苦痛が多く、介護施設の充実を望みます。(男性 / 65 歳～69 歳)
- 夫の親の介護に夫の兄弟・姉妹の協力がほしかった。長男の妻は介護するのが当然という意識が強かった。(女性 / 65 歳～69 歳)
- 私が17才の時に寝たきりの方を介護しました。昔はオムツは布でしたが、今はパンパース(大人用)。時代が大きく変わった事でなんでも揃っていますのでびっくりしました。(女性 / 65 歳～69 歳)
- 親の面倒をみる事は当然の義務だと思っていた。また、自分を育ててくれた恩に報いるよい機会であると。家族の一員として、親の愛情に報いるのは当然だが介護制度があればもっと楽に介護ができたのではないかと思った(自分の両親)。93歳の義母は介護保険を利用して頂いているので助かります。(男性 / 65 歳～69 歳)
- 義父母の介護をしました(義父約3年義母約4年半、同時期)。義父は認知症、義母は脳梗塞のため、半身が不自由でした。義父は暴れる事もなく、ほとんど眠ったりテレビを見ていましたので、おむつの替えと食事、風呂位でおとなしく心的には楽でした。義母は頭がしっかりしていたので、聞き分けも良く、気持は楽でした。1年位は病院にも居ました。農業もあったので身体的には疲れましたが、あまり苦になりませんでした。(夫は単身赴任で留守にしていました)。(女性 / 65 歳～69 歳)
- 軽病で大変な介護ではなかったので実感がない。(男性 / 65 歳～69 歳)
- ケアマネージャーを立て、デイサービスを利用していたが精神的に疲れがたまり、介護施設に入所させた。余裕があれば家で介護すべきであると考えた。(男性 / 65 歳～69 歳)

- 介護施設の充実。(女性 / 65 歳～69 歳)
- 大変。自由が無い。(男性 / 65 歳～69 歳)
- 入院して3ヶ月すると退院すると言われる、完治していないのにどうしてと思いました。次の受け入れ先の病院を見つけるのが大変でした。(女性 / 65 歳～69 歳)
- 自分が夫の親の介護をしていた時代(今から 15 年程前)は嫁が介護をするのがあたり前でした。現在のように種々の施設等もなく苦労をしたものです。これからは増々高齢者が増えて、大変になる事と思います。どうすれば絶対的な解決法になるのか各々の事情もありますが、歳をとってからなるべく平穏な日常を送りたいものだと思います。
(女性 / 65 歳～69 歳)
- 夫の両親を介護しましたが、夫の兄妹は3人いますが、誰一人手を貸してくれませんでした。両親が元気な時は私の味方は誰ひとりいず親の言う事は全部正しい、私のする事は全部ダメ、旅行ひとつできませんでした。ですから夫や子ども達にも少しは手を貸してほしかったです。(女性 / 65 歳～69 歳)
- 家庭内が暗くなり、自由時間がなくなった。(男性 / 65 歳～69 歳)
- 15 年も前でした。義母はリュウマチのためお風呂に入る時が一番大変でした。冬は特に寒くてお風呂をいっぱいにして腰掛けてもらいどんどんかけて温めてあげました。10 年位長男の嫁は親を見ることはあたり前と考えていました。(女性 / 65 歳～69 歳)
- 介護はストレスがたまり大変だ。1 人で世話をするのが大変。デイサービスがあり助かっている。(女性 / 65 歳～69 歳)
- そばだとすぐ見ることができるが遠方の場合移動に時間を費やしてしまい十分な介護が不可能になってしまう。(女性 / 65 歳～69 歳)
- 全く行政は当てにならない。市政は介護も含めその日暮しに困っている人々に政治の光を当てるべきだ。市政とはかくあるべき…を示して欲しい。(男性 / 65 歳～69 歳)
- 日に日にボケが進み、体が衰えていく親を見て可愛そうに思うと同時に、人間の哀れさ、儚さを感じました。(女性 / 65 歳～69 歳)
- 夫の母を介護した時は 1 人で付きっきりで介護をしました。入院中はベッドの隣で寝て、夜も付き添っていました。退院後も母のそばへ布団を敷いて面倒を看ましたが、それはそれは大変でした。夫は勤めていて休みも取れなかったし、介護休業があつてたまには変わってもらえればどんなに良かったのかと今思います。(女性 / 65 歳～69 歳)
- 介護することは一人ではよい介護ができない。(男性 / 65 歳～69 歳)
- とにかく大変だった。介護度のアップを検討しているうちに亡くなってしまった(対応がスロウ過ぎる)。(男性 / 65 歳～69 歳)
- 母親も入院期間が長かったので、さほどではないのですが時間的に参りました。共働きでしたので会社から一旦家に帰り、子ども達も中学、高校でしたので子どもの世話、夕食の用意のため妻を降ろし、それから病院通いでした。洗濯物の交換、諸々の段取り、男

の自分がやりましたが、その事自体当然だと思っていましたので、嫌ではなかったです。できることは協力するのが当たり前だと考えていましたので今も悔いはありません。

(男性 / 65 歳～69 歳)

- 今のように介護保険制度もなく生活のため働かざるを得ない状況の中、入院もさせてもらえず家で介護するのに入浴など、とても大変でした。(女性 / 65 歳～69 歳)
- 主として介護をする人が病気だったので、老人ホームに入り、ホームから次のホームに入る時など1週間とか1ヶ月程の介護でしたが、本人は変わらぬことに不安がっていた。(女性 / 65 歳～69 歳)
- 私の場合は介護制度がありませんでしたので、まず経済的に全てが個人負担でしたので、生活費にも苦しい面がありました。(女性 / 65 歳～69 歳)
- 介護の苦しさは介護を経験した者にしか分らない。妻と一緒に介護をしたが、妻が一番苦労したので、将来認知症にならないかと心配である。(男性 / 65 歳～69 歳)
- 夫や夫の兄弟の助けがなければ一人ではとても介護しきれないと思いました。(女性 / 65 歳～69 歳)
- 介護をしている人に休んでもらうためにショートステイの制度があったのでとても助かった。だがもう少し短い日時にあればよかったです。でも利用者が多すぎるから無理ないですね。(女性 / 65 歳～69 歳)
- 夫婦で病院にお世話になっています。夫の場合、ガンなので保険がきかない薬を必要としており家計が大変苦しいです。(女性 / 65 歳～69 歳)
- もう亡くなってしまったが、当時はどのくらい続くのだろうかと思った。(男性 / 65 歳～69 歳)
- 義父母共、脳梗塞で父6年、母2年で身体的にも精神的にも大変でした。長期入院生活でしたが仕事をしながら介護しました。(男性 / 65 歳～69 歳)
- 介護は一人ではできない。家族の協力、介護保険サービスなどを利用し仕事を分担しないと続きません。また、サービスを利用しても月々の費用が高額になり苦労して家で介護する事が多く大変な生活でした。私のしてきた介護を通し自分自身年老いてこのようになった時など。先の事を考えますと不安で長生きをする事が苦痛になります。老後の心配のないよう社会福祉を心より願っています。(女性 / 65 歳～69 歳)
- 当時の仕事がスナック経営でしたので時間的には困りませんでした。少し疲れしました。(女性 / 65 歳～69 歳)
- 妻と半々に関わったので、それ程大変とは思いませんでした。(男性 / 65 歳～69 歳)
- 妻が70%面倒看っていたのだが、自宅の介護は大変であった。養護老人ホームに入るには、時間がかかりすぎた(期間)。迅速にしかも格安に入れるホームができればいいと思う。(男性 / 65 歳～69 歳)
- 介護が夫の退職後になったので、いつも二人で一緒に行動できたことは幸いでした。同時に自分だけが他人なので細かいところで考え方の相違などあり、疲れしました。

介護施設へは毎日通いました。スタッフの皆さんの苦勞、優しさに感謝しています。給与等改善されることを願っています。(女性 / 65 歳～69 歳)

- 家で3年近く介護して9年施設にお世話になっています。家での介護の時は月に2回～3回ぎっくり腰になり動けない時もありつらい思いをしました。施設にお世話になると身体的には楽になりますが、月 10 万円以上かかります。私の年金で支払いをしていますが、私も医者に行くことが多くなり、先が心配です。(女性 / 65 歳～69 歳)
- 炊事、洗濯が大変でした。(男性 / 65 歳～69 歳)
- 農業の忙しいときは大変でした。(女性 / 65 歳～69 歳)
- 自由になれる時間がほしいと思いました。兄弟姉妹がいましたが、なかなか自発的に預かってもらうことがなく、実家に帰るときは施設に預けていきましたが、場所がなく苦勞しました。(女性 / 65 歳～69 歳)
- 施設の利用費が高い。(男性 / 65 歳～69 歳)
- 最初はとまどいがあったが市の種々のことを取り入れて手伝って頂きながらできた。何でも一人で最初はやろうとしたが、市の風呂など利用してとても良かった。困ったときは相談することが大事だと思う。(女性 / 65 歳～69 歳)
- 家族で分担しながら介護する。(女性 / 65 歳～69 歳)
- 義理の父母二人一緒に認知症になり、私一人の力ではとても大変でした。夫がちょうど定年退職で二人で看病しましたが、夜昼わからなくなり、私の方が体を悪くして特別養護老人ホームへお願いし大変助かりました。(女性 / 65 歳～69 歳)
- 入りたいときに入れる高齢者の施設が少な過ぎる。グループホーム、特別養護老人ホーム等々もっと増やしてほしい。(女性 / 65 歳～69 歳)
- 自分ばかり背負うことなく、もっともつと周りの人達が遠慮なく素直な気持ちで声をかけてほしい、協力していただいた方が自分自身、そして周りの人間関係も楽な思いでできたのでは・・・と反省しています。(女性 / 65 歳～69 歳)
- 近所に食事の準備を手伝ってくれる人がいて、それが最も助けになりました。病院へ毎日通うときにも、簡単な家庭料理を届けたりできました。自分もフルタイムで仕事を持っていて、子どもも二人育てていましたが、夕食にそうした助けがあることで心にゆとりを持つことができ、ありがたかったです。(女性 / 65 歳～69 歳)
- モーレツ社員をしていたので、妻にしてもらうより仕方が無かった。
(男性 / 70 歳～74 歳)
- 一年半にわたる闘病生活でしたが、70 歳での発病だったので、医療費が安くなり本当に助かりました。(女性 / 70 歳～74 歳)
- 夫とその兄弟が少し協力してもらえたら助かると思いました。(女性 / 70 歳～74 歳)
- 行政面の援助の制度があったらなー。と思いました。(男性 / 70 歳～74 歳)
- 最後まで自分で出来ることに頑張った。10 日間位であまり手がかからなかった。
(女性 / 70 歳～74 歳)

- 大変な苦勞です。(男性 / 70 歳～74 歳)
- 親の介護といえども大変であった。(男性 / 70 歳～74 歳)
- 介護される人より介護する身の方が幸せと感じる。(女性 / 70 歳～74 歳)
- 介護保険が出来る前で大変でした。勤めもあり社員からパートにかえてもらい介護しましたが今のように新聞等で認知症、介護に必要なバリアフリーに家の中を変える事も出来ず、大変でした。認知症の知識は昔と変わりましたね。(女性 / 70 歳～74 歳)
- 私は義母ですが、脳梗塞で 50 日位の入院で亡くなったのですが、当然私がやるものと思っていた。(女性 / 70 歳～74 歳)
- 母 86 才で転倒による腰の圧迫骨折、97 才まで 10 年余妻と共に介護、当時現役だった私。介護のほとんどは妻に。ベッド→車イス→ベッド生活の中で妻も腰を痛める。デイサービス、ショートステイ等の利用により妻の負担軽減を図ったが、母の没後、妻も腰椎手術(第 4.5 腰椎スベリ症、今も金具が入ったまま)家事一切できるようになりました。今も続いています。「家事は女性の仕事」は大きな間違い。(男性 / 70 歳～74 歳)
- 自分の親であってもいざ介護するとなったら、なかなか思うようにいかず体力的にも大変。長期になると自分自身の体の事が心配になった。(男性 / 70 歳～74 歳)
- 会社を休んで介護をすることがなかなか昔はできなかった。(男性 / 70 歳～74 歳)
- 大変な時もありました。(男性 / 70 歳～74 歳)
- 私も 70 歳を過ぎて今思えば昔の年寄りは今よりはずっと幸せだったんじゃないかと思えます。施設もなく自宅で嫁に見てもらい、私は転勤族でしたがとても一緒に連れ回すことは出来ませんでした。夫に県外ばかりでしたが行ってもらい、子供達とおばあちゃんて暮らして 15～6 年、いろいろありました。夜など床の中で涙した事、今はあの時いろいろやってあげられて何も心残りはありません。おむつの生活も一年ほどあり、床ずれにならないよう一所懸命考えて過しました。義母も 93 才まで寝て過しましたが、とても感謝しつつでしたので幸せに思いました。(女性 / 70 歳～74 歳)
- 自然だと思う。だれでも年を取る。(男性 / 70 歳～74 歳)
- 母の介護を 5 年間して来ました。介護サービス(デイケア)を利用しました。一般的に大変だとよく聞きましたが、案外スムーズにうまくやってこられました。あまり苦にならなかったように思います。ただ金額の面で大変な日々もありました。(女性 / 70 歳～74 歳)
- 妻の障害が 1 種 2 級ですので、現在日赤(月 2～3 回)、近くの内科医(月 1 回)通院の送迎、付き添いをしています。又あまり出来ませんが主夫をやっていきます。
(男性 / 70 歳～74 歳)
- 一人だけで世話をしない。会話をしっかりする。自分で出来ることはやってもらう。
(女性 / 70 歳～74 歳)
- 12～15 年以上前であり、介護施設が少なく、早期の設置を強く望んだ。
(男性 / 70 歳～74 歳)

- 入院中の付添、夜間担当。翌日病院からの出勤の毎日が続いた。自分以外に人をあてにすることはできない。(男性 / 70 歳～74 歳)
- 介護している時、会話を大事にしていました。(女性 / 70 歳～74 歳)
- 今から 14 年前のことになります。退職した年 90 才の実父がガンであることが判明し、それまで一人暮らしだったので、夫と娘に家を頼み、実家に泊りきりで父の介護に当たりました。初めのころはまだしっかりしていたので、主に食事、お掃除、洗濯などでした。一番大変だったのは入浴で遠方から息子に来てもらいました。当時は娘の私が介護することは当然のことと受け止め、あまり苦勞も感じませんでした。父もなるべく自分のことはしなければと思っていた人でしたので、たまに私が切れましたが、世間一般の苦勞より苦勞は少なかったと思います。今ふり返ってみて反省点は主なもの 2 点です。①入浴などは当時始まっていたデイケアなどのお世話になった方がよかった。②末期の食事について、父はつけ物と固めのごはんを食べたかったので望み通りに用意してしまったが消化出来なかった(吐いてしまった)。流動食など用意すべきだった。指導もなく、自分の無知があった。(女性 / 70 歳～74 歳)
- 自分の時間が全くない。(女性 / 70 歳～74 歳)
- 母は 3 年間病院に入院していました。3ヶ月で退院するのが主でしたが、母の入っていた所は死を迎えるまで入院できて、とても有難かったです。しかしベッドに寝せておく毎日でもっと何か工夫がなかったかと思いました(例えばテレビを見せる。集団で集まって何かをする等)。病人は家族が来るのを待っているだけではむなしいと思いました。親族の入院した所はテレビを見たり、作品(手先を使う)を無理のないようにやっていました。介護すると言っても、食事の時一緒に居てやる、手足を拭いてやる、車椅子で散歩させる等でしたがこれからの介護はボランティアを募り(少しお金を出す)、歩く、話す、遊ぶ等スケールを大きくしていく必要があるのではないのでしょうか。(女性 / 70 歳～74 歳)
- 介護は 1 人では無理。自分に余裕がなく優しく出来ない。私の場合、義妹(弟の妻)、介護師の 3 人一緒だったり交代だったり、介護施設を利用させて頂きながらの 6 年間でした。その間、病院へ入退院 5～6 回程、ケアマネージャーさんにも恵まれ周りの皆様に助けを頂いて両親を送る事が出来ました。介護は 1 人では無理、色々な所、人に相談が大切だと思います。(女性 / 70 歳～74 歳)
- 妻の母は戦争未亡人。ガンで死亡。妻が介護。妻、小生、日給月給で、昼間働く。小生の両親も妻が介護していた。小生の兄妹 8 人いるが、長野にいるのは妻のみ。小生の妻が全部介護。(男性 / 70 歳～74 歳)
- 義父の時は義母が頑張ってくれたので、助かったが経済的負担は大きかった(60 代後半倒れ 70 才で亡)。義母は 93 才迄長命だったが約 10 年間、施設と家庭と、私も勤めていたので、時間に追われ心身共に疲れた。一番感じたのは、本人が気に入る施設でも慣れた入所の方が介護しやすいと思うのにタライマワシ(施設を移され自宅へもどされ)に不満！家で介護には限界有り。希望者が利用できる施設創りを強く望む。今後我々夫

婦も不安を抱えている。施設をつくることにより若者の働く場所を提供してほしい。経済効果にもなるのでは？(女性 / 70 歳～74 歳)

- 1 お便所の処理。2 お風呂に入れる時。(男性 / 70 歳～74 歳)
- 介護の受け入れ先を見つけるのが、大変苦労した。私の母は要介護5だったので病院で見てもらったのですが、3ヶ月で移らなければ行けないので、せめて6ヶ月ぐらい居られるようになれば病人の体に負担が軽くなるので、もう少し長生き出来たんじゃないかと思う。(男性 / 70 歳～74 歳)
- 共働きをしていたため留守中のことが心配だった(火の始末留守中の行動)。認知症の症状が出始め、病院に入院するが、数カ月で転々と行く先を変えなくてはならず、最後は精神科で預かってくれ救われた。その間入浴させるため、週1回位入浴させに行ったりレベル低下で自力で食事ができず食事介助に出来る限り通ったり・・・以上のような点が改善されることが望まれる。夫の協力不足、夫の姉妹の協力もほしかった。(女性 / 70 歳～74 歳)
- 母は延命処置により 10 年寝たきり生活をしいられました。母の性格からしてもとてもつらかったと思います。私は夫共々延命は絶対に反対です。(女性 / 70 歳～74 歳)
- 夫の父の時は大変でした。夕方4時から次の番まででしたので、夜は大変な目にあいました。80歳で旅立ちました。自分の母の時は自宅でしたのでとても困った事はありませんでした。96才で旅立ちました。(女性 / 70 歳～74 歳)
- 夫の両親の時は近くに住む兄弟でローテーションを組んだので、過ぎてしまえばそれ程大変とは思わなかったが、自分の両親は嫁の介護放棄で随分苦労しました。介護保険制度が始まりましたが利用出来ずに亡くなりました。夫の時は仕事もやめていたので、ただただ夢中で介護しました。今後自分が看護される時、介護保険制度が充実してくれる事を願っております。(女性 / 70 歳～74 歳)
- 自宅で親を入浴させる(設備・人員)。人員は二人(男性一人を含む)必要。入浴の設備が健常者用と併用。(男性 / 70 歳～74 歳)
- 20 年位前の時代まだ介護保険もない時代、妻が仕事をしていた。市役所へ相談に行った時、お宅の年金経済的に奥さんが仕事をやめ看れば良いと言われた。福祉課で分かりでした。(男性 / 70 歳～74 歳)
- 子供達がわけ合って介護した方が良い。(女性 / 70 歳～74 歳)
- 自分の気持で相手を思うように動かすのは難しい。相手が動きたいと思う気持ちにさせて動かすようにしたらうまくいった。例えば、「お父さんちょっと来て！！」と言っても来ない時は「うわ～！！これなんだろう？お父さん見て～！！」とか言って気持ちを動かした。(女性 / 70 歳～74 歳)
- 母が亡くなり 13 年になります。当時、子供達は独身で働いていましたので介護休暇を2 年位利用して母の看病をしました。自分の思いどおりに母を看取る事が出来、職場の皆様本当に感謝しております。(女性 / 70 歳～74 歳)

- 義母が認知症となりましたが、介護保険がありとても助かりました。1人で介護しましたが、ショートステイ、デイサービスを利用し、ストレスをためないで介護出来ました。
(女性 / 70 歳～74 歳)
- 家族でもないのに他人は無責任に口をはさんでくる。すきにやらせてと言いたくなる。
(女性 / 70 歳～74 歳)
- 病人用のベッドを貸してもらい大変ありがたい。家に風呂を持って来て入浴してもらえた事。
(女性 / 70 歳～74 歳)
- とにかく大変でした。(男性 / 70 歳～74 歳)
- 経済的、身体的に大変。家庭内が暗くなる。(女性 / 70 歳～74 歳)
- 私は妻に先立たれて、今は兄弟との生活です。妻の介護の病院生活を1年程続け、慣れない私生活に苦労の連続でした。また、数年前は自分の母の看病に1人で1年間、妹と娘に手伝ってもらい家でのベッド生活、訪問看護師さんと、ヘルパーさんに毎日来て頂き助けられました。今になると家族全体の協力が大切に思う毎日です。
(男性 / 70 歳～74 歳)
- もう20年も前の事ですが、家を借りていた大家さん2人の面倒を見て、相談する所もなく大変な苦労をしました。今のようだったらどんなに良かったかと思えます。
(女性 / 70 歳～74 歳)
- やっと施設に入所出来ても3ヶ月とか6ヶ月とかで区切られ、次を探さなくてはならず苦労した思いがあります。(女性 / 70 歳～74 歳)
- 私が介護していた時期は今から30年くらい前でしたので、社会状況が変わっていますが、家中でのみ看るといことは大変なことだと思いました。(女性 / 70 歳～74 歳)
- 自分の親だから当然。今まで苦労やら心配ばかりさせて来たので最後の親孝行の想いで。(男性 / 70 歳～74 歳)
- 仕事をやめて子供(3人)にはお金がかかるし大変だった。夫も体調が良くなかったので自分もおかしくなった。でも頑張った。(女性 / 70 歳～74 歳)
- 5年間の介護をしましたが、2人一緒に介護を3年間位しました。デイサービスを利用したり、病院への入退院でした。精神的・体力的にも非常に大変な事だと思います。家族にも重荷にならない様なサービスをお願いしたいと思います。(女性 / 70 歳～74 歳)
- 自分自身の健康管理をしなければいけない。介護されている方が大変気をつけているのでは。早く元気になってくれないか。(女性 / 70 歳～74 歳)
- 忘れた。(男性 / 70 歳～74 歳)
- 夫ももちろん自分がやるべきと思っていた。(女性 / 70 歳～74 歳)
- 当時介護保険制度と併用出来ましたので助かりました。(女性 / 70 歳～74 歳)
- 介護の仕方を各自が選べるようにすべきである。現在は施設に預けたいと思っても空きがないなどの理由で入れない。介護保険料を払っているのに、国(県・市町村)はサギ師と同じ事をしている。(男性 / 70 歳～74 歳)

- 大変だったけれど、もう少し長い間見てやりたかったが、自分の家へ帰りたがってだめでした。(女性 / 70 歳～74 歳)
- 今から7年前義母を家で介護しました。4年間、私は近所の義母の仲のいい友達に出掛ける時等お願いしました。1人で365日は大変です。その時思った事は介護者にも手当てをと思いました。長い間には経済の面でも大変でした。そんな時少しでも自分の心の支えとなる物、それはやっぱり手当てだと思いました。少しでも心に余裕が持てる生活、それがオムツに変わってしまうにつけても、考えてほしいです。(女性 / 70 歳～74 歳)
- 介護施設はなかなか入れないし、入れても費用がかかり大変。色々なサービスを受けるにもすべてお金だから、少ない年金生活者家族が(特に嫁が)、精神的、肉体的、経済的な負担を全部背負わなければならない場合が多い。(女性 / 70 歳～74 歳)
- 夜のトイレが大変です。(女性 / 70 歳～74 歳)
- 自分で介護すると以前から考えていたので・・・(短い間だったので)。(女性 / 70 歳～74 歳)
- 9年前、体が一番疲れていた時、義理の母親が急に入院し、20日位昼間は姉妹に看ていただき夜は自分が介護していました。家の仕事もあり疲れて自分の体がどうなるかと不安でしたが、母も安らかに天国に行きました。悔いはないです。次は自分の番です。老夫婦です。隣に娘がいます。(女性 / 70 歳～74 歳)
- 私の介護していた頃は今から20年以上も前のことですので、今は大分良い制度も出ていますので大変恵まれていると思います。ただ、いつの時代も介護される人よりする人のケアを第一に考え、忘れないでほしいと思います。うまくは言えませんが介護する人の方が大変です。(女性 / 70 歳～74 歳)
- 2人の病人を介護しておりました。訪問看護の看護師さんにアドバイスをしていただきながら看病し又お風呂も看護師さん1人、入浴時にもう1人お願いして助けて頂きました。他いろいろな制度がありますが、もっと楽に利用が出来たらと思いました。(女性 / 70 歳～74 歳)
- 若い時に父を兄弟3人で時間を調整しながら介護しました。その時はつらい事もありましたが今ではよい思い出になりました。(女性 / 70 歳～74 歳)
- 兄弟で見られるとよかった。(女性 / 70 歳～74 歳)
- 父の介護で、介護保険、収入(年金)もなく大変苦労した。(男性 / 70 歳～74 歳)
- 妻が主体的に介護したが9年間に及び、精神的に疲れた。(男性 / 70 歳～74 歳)
- 介護とは人間の生命の期限がわからないので本当に長引くと精神的にも疲れが出ます。優しい言葉の見舞が嬉しいです。又病人には後悔のないように優しく労っているとお互いに情がわきます。(女性 / 70 歳～74 歳)
- 実父母なので当然介護すべきで専念するが、職をもっていると一定期間はよいが長期になると妻に依頼、負担になって精神的な疲労過重を与えてしまった。兄弟へも依頼する

が抵抗が大きく、実行されなかった(援助は受けられなかった。)。妻への犠牲的精神にたよってしまった。(男性 / 70 歳～74 歳)

- 夫婦で看ました。(女性 / 70 歳～74 歳)
- 自分に出来ることは惜しみなく介護したいと思い、またそれを実行して終了した時は満足感があった。(女性 / 70 歳～74 歳)
- もう 10 年になりますが、実母を家で 1 年半寝たきり(脳梗塞)の生活だった時に、感じたことは話すことはあまりできなかったけど、こちらから言うことは大丈夫だったこともあり、みんなが集まる居間のそばの部屋に居たことが何より本当に良かったと思いました。みんなの会話を聞いて笑ったりうなずいたりいつも笑顔でいてくれたことです。90 歳で他界しました。その間、リハビリの人、看護師、医師と来て下さり、また寝たきりですと寝腰にもなりますが、そんなことにもならず、いつも声をかけながら、体を動かしてあげたことが良かったようで、医師からそのことをほめられたことが一番嬉しかったですね。
(女性 / 70 歳～74 歳)
- 病院の送り迎え。お風呂。(女性 / 70 歳～74 歳)
- 勤めていたので長い休暇が取りにくく大変だった思い出があります。
(女性 / 70 歳～74 歳)
- 老々介護で自分の老後がありません。(女性 / 70 歳～74 歳)
- 周囲の協力もあり、精一杯できることに努力する。危篤状態で意識のない中、ずっと私の名前を呼び続けた義母に私も心から感謝でした。(男性 / 70 歳～74 歳)
- 同居家族の負担が大きい。(男性 / 70 歳～74 歳)
- 義父母の介護を家で出来たので、悔いが残らず良かったと思いました。
(女性 / 70 歳～74 歳)
- 老人保健施設にお世話になっている時、3ヶ月くらいになると次の入居所を探さなくてはならないこと。(女性 / 70 歳～74 歳)
- 仕事との両立が大変でした。経済的にも。(女性 / 70 歳～74 歳)
- 自分の親だから当然やるべきだと思う。(男性 / 70 歳～74 歳)
- 耳が聞こえなく会話がなかったことが悲しかった。仕事をしながらの介護だったので時間に追われていた。夫も手伝ってくれるとよいのと思った。(女性 / 70 歳～74 歳)
- 母が健在、妻もいたので特に支障がなかった。父を病院で 1 年その後、家で 3 年介護した。(男性 / 70 歳～74 歳)
- 夜中にポータブルトイレを使用せずトイレまで行くことがある。転倒して骨折しないかが心配であったこと。(男性 / 70 歳～74 歳)
- 生活費をもう少し頂ければもう少し色々買ってあげられるのですが、年金も私の倍ぐらいかな？(女性 / 70 歳～74 歳)
- 明治生まれの舅、姑というのは嫁に看護させるのは当たり前という考えで、夫も協力なんてことは一切考えず、私一人とび歩いて看病しました。良くやれたとつくづく思います。

まだ他人に介護とか訪問などとはとても考えられない時だったので思い出だけで涙が出ます。(女性 / 70 歳～74 歳)

- 自分一人で介護をすると大変です。介護保険制度のサービスが利用できたと思う(その時代はまだなかったの)。(女性 / 70 歳～74 歳)
- 「ありがとう」この言葉が嬉しかった。介護者を信用すること。(女性 / 70 歳～74 歳)
- 経済的に受け入れてくれる施設がなかったこと。兄弟での意見が合わなかったこと。(女性 / 70 歳～74 歳)
- 本人の意思を尊重して気持良く、生活できるように心がけた。(男性 / 70 歳～74 歳)
- まだ始まったばかりなので良くわかりません。今のところ、あまり手がかかるとは思っていない。(女性 / 70 歳～74 歳)
- ストレスがたまった。(女性 / 70 歳～74 歳)
- 妻が特別養護老人ホーム入所中の妻の実母の面倒を約7年間看ている。妻の実父(100 歳)を私が主に面倒を看ている。健康なので自分のできることには助けない。経済(親2人の年金が1/4しかないの)的にやや苦しい。食欲は若者には負けない(以上)が、家のもろもろのことを全く我関せずで、テレビを1日10時間見ている、そのことで文句を言ったことがないが、感謝の言葉もなく面倒の看がいがいい。(男性 / 70 歳～74 歳)
- 長男のところに嫁いだからには覚悟してと、父母に言われた時代でしたのでなんの抵抗もなくやりました。(女性 / 70 歳～74 歳)
- 古い観念で長男の嫁が全部介護に終り、最後に、長男、次男共、感謝の言葉はなかった。(男性 / 70 歳～74 歳)
- 妻の膝、腰の手術後、2、3カ月間軽度の介護をした。トイレ、入浴も介護の必要がなかった。現在は平常の生活をしている。(男性 / 75 歳以上)
- 経済的支出の側面では確かに自分が擔っていたと思うが、労力の側面は全く妻に頼りきりであった。その矛盾に悩みを感じた事はある。(男性 / 75 歳以上)
- 老々介護は非常に大変です。夜は自分が眠ったのかどうかわからない位です。今年になって2度の入院です。(女性 / 75 歳以上)
- 昔なのでとにかく親は私に看てもらいたいというので、死にものぐるいで看た。(女性 / 75 歳以上)
- 自分の母を9ヶ月介護したが夫や親族に気を使う事が多かった。(女性 / 75 歳以上)
- 退職後で時間的余裕があり、また、健康であったので介護に協力ができた。自宅介護であったので外泊等の場合、介護施設等を利用でき、有り難かった。(男性 / 75 歳以上)
- 公的介護施設の充実が必要。(男性 / 75 歳以上)
- 自宅介護だけではなく、もっと施設に受け入れてもらいたかった。(男性 / 75 歳以上)
- 自分一人では介護しきれない。他の人の援助が必要である。(男性 / 75 歳以上)
- 時間的労力的精神的には、妻の方が介護労力が多く、大変だと思いました。(男性 / 75 歳以上)

- 15年前は今程認知症について知識がなかったり誤解があった。→周囲からのプレッシャーが大変。(女性 / 75歳以上)
- 兄弟で交替で介護したのであまり負担は感じませんでした。(男性 / 75歳以上)
- 仕事をやめようかと思ったが、やめれば生活ができない、弱った。(男性 / 75歳以上)
- 介護する者も健康でなければ大変です。(女性 / 75歳以上)
- 自分の母の場合は、母の状態が比較的軽く、洗濯などは気分のよいとき自分でやっていたので、食事などは妻が料理してくれました。買物、医者など外出のときは私がつれていくなど、介護の内容は状態としては「やや軽かったのでは」と思われます。5年程同居の介護でしたが、近くに介護施設ができたので入居、1年程で他界(92才)しました。自分として苦痛であったのは、夫婦間の精神的な意見相違など常にあったことです。早くも10年近く前のことですが、今ご近所はそのような家庭が多く、社会的に助け合いの輪をひろげていきたいものです。(男性 / 75歳以上)
- 先が見えず疲れた。精神的にも不安定になった。(女性 / 75歳以上)
- 母の脳溢血で20年間の付添ですが、姉妹が3人も居り、交代で看ましたので、助かりました。(女性 / 75歳以上)
- 義父は40年前、義母は20年前の介護は大変でした。介護用品もなく手作り工夫し若さで頑張ってやりました。夫は8年前、ヘルパーさん、看護師さん、ケアマネージャーさん、長男の妻に手伝ってもらい自宅で看取りました。主治医の先生にもよくして頂き感謝しています。(女性 / 75歳以上)
- 足腰が丈夫なときは介護出来るが車椅子生活となると家では介護するのが難しくなる。(女性 / 75歳以上)
- 8年間は我が家で介護していたが認知症が進み、施設にお願いしたのですが、お金がかかりとても苦労しました。もし自分に介護が必要になったとき娘に迷惑がかからない様、保険に加入しました。掛金が沢山で今その掛金の支払に苦労しています。(女性 / 75歳以上)
- 妻が脳梗塞のため、私と長女、孫(女の子)が介護しております。簡単に治るものでなく長期間の介護が必要になる事を覚悟しております。(男性 / 75歳以上)
- 父母の介護は1960年代で、夫婦共に勤務でしたので介護施設はなし、自宅です。いろいろ悩み(特に下半身の世話)もありました。今は施設もあり助かります。高齢化が進み入所施設に容易に利用出来るよう行政に希望します。(男性 / 75歳以上)
- 出来るだけ自宅で介護してやりたかったが、家族皆が無理をする様になるので、やむなく施設の利用を考えた。想像以上に大変なことだと思った。(男性 / 75歳以上)
- 30年40年前だったので農業をしながらの自宅介護でした。毎日顔を見て泣いたり笑ったり、下着、寝巻き、オムツも自分で工夫して作り寝たきりの1年半でしたが今はなつかしく思います。今は紙おむつも下着なども良い物があるので、自分が健康であれば自宅介護をしたいと思います。(女性 / 75歳以上)

- 夫を介護していても自分の健康も考えた事、在宅するにあたり検査をして自分では何も感じなかったがガンが見つかり、夫の入院中に自分も手術することになり家族は大変でした。子供達に感謝しております。家族の絆です。(女性 / 75 歳以上)
- 自分もヘルパーさんをめざしていたのですがお世話になる方になってしまいました。残念です。(女性 / 75 歳以上)
- 一日も留守出来ないのが大変つらいです。(女性 / 75 歳以上)
- 介護制度が今のように充実していない時期で、自分で運転が出来ず長野病院まで発作のたびタクシーをたのみ退院のくりかえしを続けた事です。(女性 / 75 歳以上)
- 介護するほど重くなかった。一緒に家で暮らせたことは良かった。(女性 / 75 歳以上)
- 30 年位前でしたので今のように紙おむつがなかったので大変でした。
(女性 / 75 歳以上)
- 食事をさせること。排泄の片づけ。排泄をさせる事。(男性 / 75 歳以上)
- 介護料の負担が苦しい。(女性 / 75 歳以上)
- 応援協力してくれる人が必要です。(男性 / 75 歳以上)
- 大変だった。1人ですべてやっていたので…。(女性 / 75 歳以上)
- 今も介護中。いろんな制度がうまくいっていると満足している。(男性 / 75 歳以上)
- 食事と育児。(男性 / 75 歳以上)
- 夫が手伝ってくれて嬉しかった。(女性 / 75 歳以上)
- 認知症のため、下の処理に苦労。(男性 / 75 歳以上)
- ある程度介護が長くなると、老老介護は不可能と思う。(女性 / 75 歳以上)
- 勤務も定年より5年早くやめた。自分の時間がなかった。介護が終わった時、自分が2年も病気になり、以降健康はとりもどせない。(女性 / 75 歳以上)
- 日本経済を考える時に福祉・介護も大切ですがある程度の我慢が必要だと思います。苦労をする方をいとわない時代になって来ています。唯々生かしておけばよいという方だと医療費がいくらあっても限りない。胃ロウまでして生かす意味があるのかと考えさせられます。(男性 / 75 歳以上)
- 介護者の悩みを聞いてもらえる機会がたくさんあればいいなあと思う。いろいろ参考になったり、教えてあげたり、苦労を分かち合えたり、心が広くなるように思う。
(女性 / 75 歳以上)
- 父母は当時(今は亡くなって居りますが)、父は脳卒中で倒れ(2回倒れ2回目が 60 才ぐらい)母が面倒を見ていたが、父は寝たきりでしたが13年も寝たきりでおり、母もくたびれてしまい、それでも父が亡くなるまでは母が面倒を見ておりましたが、私は当時は大阪に勤めておりましたので直接の面倒は見られなかったが、経済的な援助は出来る範囲で行い、土日の休みを利用して看に行っていた。父が亡くなり、母が腰の骨を折り車椅子の生活となり、上田の特別養護老人ホームに入り、亡くなるまでそこに入っていた。経済的な事は私が長男(男1人)のため最後まで面倒みました。大阪に連れて来ようと大阪で

交渉したが、沢山人が待っていて順番に入るとすれば3年くらいかかると云われ、仕方なく1～2月の1週は大阪から上田まで通うしか方法がなかった。平成19年5月、私と女房が2人で現在の長野の住所に越して来た。当時母親を大阪の特別養護老人ホーム施設に連れて来てたくて役所に大阪に移す事は出来ないかと相談に行った時に今入れなくて困っている人が沢山人に上田に入っているなら貴方が何回でも通えば良いでないですかと、役所の人に云われた時は少し頭にきた事がありました。(男性 / 75歳以上)

- 妻の介護のため大変疲れる。(男性 / 75歳以上)
- 家庭における家族の介護は、全て行うのは無理。認知症が重くなった場合は、施設でなければ不可。(男性 / 75歳以上)
- 職場の理解が得られてよかった。(男性 / 75歳以上)
- 介護するのが一人だけでは大変なので、交替出来る様に2・3人でローテーションを組んで介護に当たる方が良いと思った。(女性 / 75歳以上)
- 自分の休日が欲しかったです。(女性 / 75歳以上)
- 寝たきりとなりましたら大変ですね！お風呂、食事、尿便のお世話です。
(女性 / 75歳以上)
- 入院しても転院が厳しくて、場所によっては病人の癒してやる場所がなくて困りました。
(女性 / 75歳以上)
- 私の介護の時は、まだまだ介護施設にお願いする事はためられた時代でした。幸いにも義姉や義弟が度々訪ずれ、夜なども義父に付いてくれたので助かりました。また私達夫婦でなるべく寝たきりにならない様に手を引いて、毎日近所を散歩してそれを日課にしておりました。お陰で義父は最後まで歩く事が出来て本人もよかったのではと思います。現在は子供が少なく遠方にそれぞれの生活があるので、私は介護保険制度や介護保険施設を利用しなければと思います。(女性 / 75歳以上)
- 本人は身体障害者 1種1級(心臓弁膜不全)。
妻は身体障害者 2種4級(歩行困難)。(男性 / 75歳以上)
- 長い間別居生活をしておりました。義母が80歳になりました時に私だけ共に生活をするようになりました。夫は単身赴任でした。その間、義母は田畑を私と一緒にやったり、元気にしておりましたが、甲状腺癌と診断され手術もし、10年間は何事もなく楽しい毎日をお過ごししていました。93歳の頃再発、病院の入退院を繰り返し、義父の13回忌を済ませ3ヶ月後に静かに逝かれました。手のかからない義母でした。(女性 / 75歳以上)
- 主に同居人の介護になるので大変だった。(女性 / 75歳以上)
- 大切な親の介護でしたが、自分の子どもも小さく夜も何度も呼び起され、一晩でいいから朝までゆっくり眠りなと思った。7年間に3人の親を看取った。(女性 / 75歳以上)
- 精神的に肉体的に若かった時期だったので持ちこたえたものの、現在では老々介護などよく耳にしますので、一寸、考えさせられます。おむつ交換、食事など思うようにできなかった。(女性 / 75歳以上)

- 長年一家のために苦勞をして、最後の時病気であり、親に対する恩返しと思って、毎日、毎晩、病院に行つて付き添いをした。(男性 / 75 歳以上)
- ベッド、エアーマットを市よりお借りでき、大変助かりました。民生委員さんよりお声を掛けて頂き、種々様々なお話を聞かせてもらい参考になり、一生懸命感謝をしながら努めさせてもらうことができ、ありがとうございました。(女性 / 75 歳以上)
- 亡くなる2ヶ月前より身体がきかなくなり、トイレなど付き添つて行きました。その内の1ヶ月くらいはケアの出来る病院へ入り全部病院で看てもらい助かりました。その間は家族で交替で日夜、病院で見守り、最後を看取りました。これが長い期間だったら大変に思いました。(女性 / 75 歳以上)
- 義父の介護は約3年、義母の場合は寝たきりが約4年半あり、とても大変であった。特に下の世話である。その時は毎日が大変で自分の時間がなかなか取れなかったが、大変良い体験をする事ができ、現在ではよかったです。これから自分もいつ介護される身になるか分かりませんので苦勞も多かったが得ることが大変ありました。(女性 / 75 歳以上)
- 昔は紙おむつがなかったので大変でした。(女性 / 75 歳以上)
- 自分一人で全部やろうとすると無理がある。大変すぎてやはり公のお手伝いがあった方が良くと思う。また、身内の協力も大切と思った。(女性 / 75 歳以上)
- 両親の息子(長男)として親が息子を頼りにしていると共に、親は一人しかいないと思っているから、一生懸命面倒を看た。(男性 / 75 歳以上)
- 認知症が入っていると共に、歩き回るので大変でした。歳でしたので、1年足らずで病院に入りました。その点、楽になりました。(女性 / 75 歳以上)
- 夫の母だったのですが、夫は自営業だったので、買物等、夫に留守を頼むことができたので良かったです。パーキンソン病だったので、夜は何回も起こされましたが、私は50歳代だったのでどうにかできましたが、介護者が高齢者ならば一人では大変だと思いました。(女性 / 75 歳以上)
- 夫の父、母だったので嫁の立場として当たり前だと思って介護した。(女性 / 75 歳以上)
- 体力の衰えてきた人を介護するのは大変な体力が必要と感じた。(男性 / 75 歳以上)
- 遠距離で大変でした。(男性 / 75 歳以上)
- 病気の人に常に明るい顔で楽しく介護しておりました。(女性 / 75 歳以上)
- 30年ほどの歳月がたっておりますので、もっと行政のサービスがあったら助かったこともあったらと思われれます。(女性 / 75 歳以上)
- 夢中で何も考える余裕もなかった。皆お互いさま。(女性 / 75 歳以上)
- 現在、妻が身体障害になっているため、介護が必要なので世話をしている。食事の用意、洗濯物などに苦勞しています。(男性 / 75 歳以上)
- 大変でした。月日の経つうちに、嫁、姑ではなくなりました。それが何よりだったと思います。(女性 / 75 歳以上)

- 一人で介護していた時、友達に支えて頂いた時には、随分助かりました。
(女性 / 75 歳以上)
- 在宅介護は大変でした。(女性 / 75 歳以上)
- 夫の兄弟は6人ですが長男の嫁の立場で当然という感じでした。(女性 / 75 歳以上)
- 今の様に介護保険がなかったので大変でした。家で見ており、夫(家族)にも協力してもらいました。(女性 / 75 歳以上)
- 私は夫の父母を10年間介護しましたが、今みたいに介護保険制度サービス利用や介護保険施設の利用なく子どもと仕事(農業)と介護でとても大変でした。これからはもっともっと介護保険サービス(介護施設サービス)利用者が安心してお願いできることを祈っています(昭和39年~50年)。(女性 / 75 歳以上)
- 親が病気になった時は、介護は当たり前である。(男性 / 75 歳以上)